

[横浜市芸能センター（横浜にぎわい座）]
令和6年度業務報告及び収支決算
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

- ※ 文中の事業欄において、
●：主催事業 ○：共催事業
を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、
□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所 在 地	横浜市中区野毛町3-110-1
構 造 ・ 規 模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上13階建の地下2階から地上4階 及び地上5階部分の各一部を専有
敷 地 ・ 延 床 面 積	専有面積 4,358.97 m ²
開 館 日	平成14年4月13日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町2番地
代 表 者	理事長 近藤誠一
設 立 年 月 日	平成3年7月10日
指 定 期 間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	令和4年4月1日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

大衆芸能は日常生活の中で、人々の心の拠り所となる親しみやすさを持ち、生きる活力を生み出す原動力にもなっています。また、落語、講談、浪曲からは、人々は敬い、助け合うことが大切であり、一人では解決できないことも打開する知恵を授かることができるといった教えを学べます。

第4期指定管理期間では、経常公演「にぎわい寄席」「企画公演」を中心とした事業展開を継続しながら、大衆芸能の広い芸種の普及、社会包摂の取り組み、地域との連携等の事業を強化し、より公共施設としての役割を意識した運営に注力します。

【基本方針】

大衆芸能の魅力を広め、地域の賑わいと、人々の交流を促し、豊かな人間性を育む演芸場を目指します。

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 方針 1 | 魅力あふれる多彩な公演を主催し、だれもが気軽に大衆芸能を楽しめる演芸場 |
| 方針 2 | ベテランから若手までが芸を磨く道場であり、晴れ舞台でもある演芸場 |
| 方針 3 | 横浜の劇場街の賑わいを現代に創出し、人々の交流を生み出す演芸場 |
| 方針 4 | 専門館としてのブランド力による安定的で持続可能な演芸場の運営 |

(2) 令和6年度の業務の報告

ア 全体について

令和6年度は、第4期指定管理期間の3年目として掲げた基本方針を目標に、桂歌丸前館長の七回忌にちなんだ公演シリーズや、抜擢真打の昇進披露公演などを開催。同時に、経常公演全体を安定的に実施し、社会の大衆芸能への関心の高まりを観客創造につなげ、日本の大衆芸能や伝統文化への入り口としての役割を果たしました。また、寄席体験やワークショップ、学校等へのアウトリーチ、若手演者の育成、野毛地区との連携などさまざまな取り組みを進め、私たちに求められる多様な役割を果たしました。

イ 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

さまざまな形態の公演を催すことによって、幅広い世代やさまざまな市民層に大衆芸能への関心と理解を高める場としました。

- ・にぎわい寄席、企画公演、登竜門シリーズと、多彩な公演を年間計245公演開催しました。
- ・桂歌丸前館長七回忌に合わせて実施した「桂歌丸師匠リスペクト」シリーズでは、公演5回、展示1回を開催しました。
- ・HPに動画「芸能散歩」の新しいコンテンツをアップしたほか、また3月にプレス懇談会を開催し、館としてのプレゼンスを高めました。

ウ 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

さまざまな切り口のプログラムを実施することで、大衆芸能を中心とした文化芸術活動の創作や体験等の場を提供しました。

- ・「寄席文字体験講座」を開催し、大変好評でした。

エ 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

若手演者の育成に取り組むとともに、子どもに向けた鑑賞の機会を設け、次世代を担う人材の育成に取組みました。

- ・春休み、夏休みの期間にそれぞれ「こども寄席」を開催し、終演後にはバックステージツアーを実施しました。また、毎年夏休みに実施しているこども対象の「マジック体験講座」に加えて、秋に新たに「鉄道ものまね講座」を実施し、大変好評でした。

オ 使命4 地域のにぎわいを創出する

地域の多様な団体等と連携して、地域のにぎわいづくりに貢献しました。

- ・「野毛地区カラオケ大会」など横浜にぎわい座利用促進委員会との共催で5回催事を行ったほか、「野毛地区振興チケット」の取扱いも継続しています。
- ・赤レンガ倉庫1号館との共催事業「横浜ダンスコレクション」を開催しました。

カ 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

市内唯一の大衆芸能の拠点として多くの人に親しまれる施設となるように、年齢・言語・障害有無などの属性にかかわらず、大衆芸能に触れる機会を創出しました。

- ・インターネットを利用されないお客様向けのサービスとして、ファックスによる公演情報提供を継続しました。
- ・障がいのある方と同伴者のチケット割引サービスを継続しました。

キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

施設運営の持続可能性を高めるために、中長期的な視点で総合的な施設の維持管理を行いました。

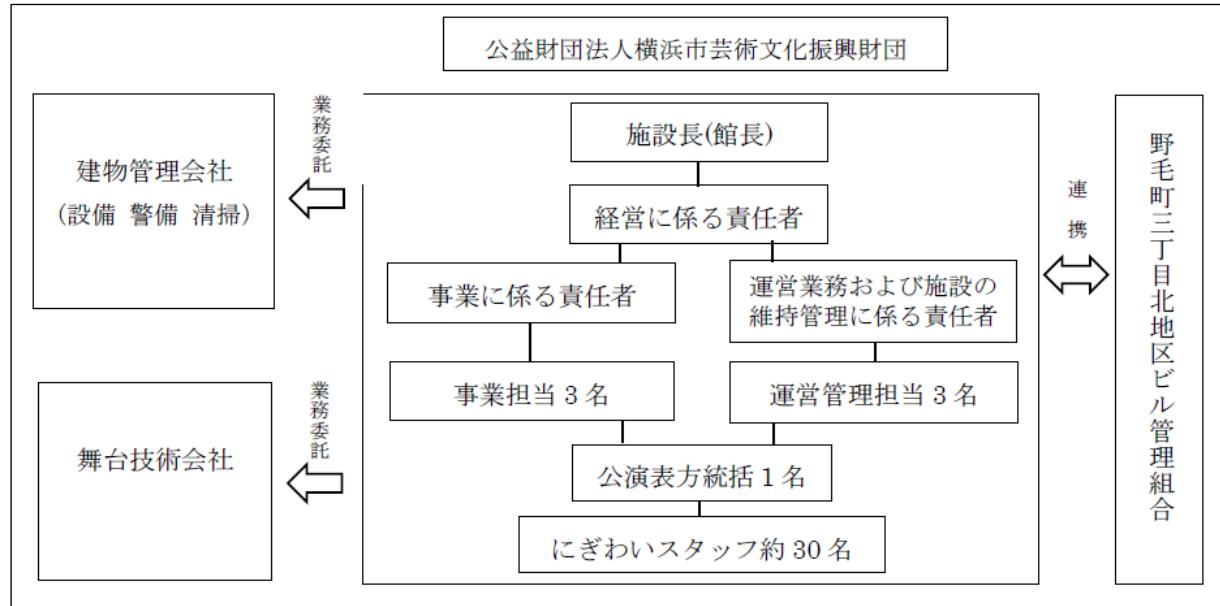
- ・館内照明のLED化、エレベーターの更新など今後生じる大規模な改修案件について横浜市と情報共有を行いました。

- ・年2回の避難訓練を全スタッフ参加で実施しました。

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

接客時は引き続きマスクを着用し客席内では飲食禁止を継続するなど来館者の安心と鑑賞に最適な環境づくりに配慮して施設運営を行いました。

4 運営組織の構造、人員配置



職員	雇用形態	1日の勤務時間	休日設定
館長(施設長)	職員		
経営に係る責任者	職員		
事業に係る責任者	職員		
運営業務および施設の維持管理に係る責任者	職員	7時間45分(シフト制/休憩1時間) ※基本シフト: 早番 9:30~18:15 遅番 13:15~22:00	月ごとに土日祝日に相当する日数を公休日として指定。業務に応じたシフト制(不定休)。
事業担当①	職員		
事業担当②	職員		
事業担当③	職員	※その他、業務に応じて複数の勤務時間体系から選択可能(職員就業規定に基づく)	
運営管理担当①	職員		
運営管理担当②	職員		
運営管理担当③	臨時雇用職員		
公演表方統括	臨時雇用職員		
にぎわいスタッフ	臨時雇用職員	4時間10分(シフト制/月15日前後)	週3~4日

大衆芸能に関する高度な知識、演芸界や野毛地域をはじめとする幅広い人脈、劇場運営や安全管理等に対する高い見識などを併せ持つ館長を施設長として配置し、総合的な視点から大衆芸能の専門館に相応しい施設マネジメントを行いました。また経営に関する責任者として、文化施設における豊富な運営経験やノウハウを持つ職員を配置し館長のマネジメントを支えました。

事業に係る責任者として芸術文化事業の企画制作や広報の業務に豊かな経験を有する専門職員のプロデューサーを配置し、館長の方針を主催事業に反映させました。運営業務ならびに施設の維持管理に係る責任者として施設運営や維持管理に長年の勤務実績を有する職員を配置しました。

設備管理、清掃、警備、舞台技術の各業務についてはそれぞれの業務に高い専門性を有する会社に業務委託し、業務の履行状況を適切に管理しました。

5 令和6年度の業務の取組

(1) 文化事業

主に大衆芸能に親しむ入り口としての「横浜にぎわい寄席」、さまざまな演者の魅力をとおして大衆芸能を深く理解する各種独演会など公演毎の機能を明確にし、毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催しました。2024年は桂歌丸前館長の七回忌にあたることから「歌丸師匠リスペクト」シリーズとして、歌丸師匠のライフワークであった埋もれた落語の発掘や希少演目に焦点を当てた「名作落語のタベ」、三遊亭圓朝作「真景累ヶ淵」連続公演と併せて、芸と人生を紹介する展示も実施しました。また、毎年好評の趣味をテーマとした演芸会シリーズでは「銭湯好き」を初開催するなど、ラインナップの充実をはかりました。さらに、子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成を推進するとともに、地元の野毛地区をはじめ地域の多様な団体等と連携し、まちのにぎわいの創出にも寄与しました。

またWEBサイトの「落語ゆかりの地を動画でめぐる 芸能散歩」のコンテンツを増やし、にぎわい座ならではの情報発信を充実させました。

(2) 施設運営

利用者、来館者の声に耳を傾けながら、専門的なノウハウを発揮する組織的な施設運営を行い、引き続き安心・安全に施設を利用できるよう注力しました。演芸ホールとしての専門特性を広く周知するとともに、大衆芸能公演の開催ノウハウを施設利用者に提供し、プロの芸能家や団体が開催する公演の利用を促し、主催公演のラインナップとの相乗効果をはかりました。

(3) 施設管理

施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用することができるよう適切な管理を行いました。経年劣化が進む施設及び設備の維持保全及び修繕については、予防修繕を心がけるとともに、60万円を超える修繕については、横浜市と十分協議を進めながら実施しました。2か所ある多目的トイレの更新工事を行ったほか、地下2Fの汚水槽配管工事については横浜市負担にて実施しました。

(4) 収支

令和6年度は、新規鑑賞者及びコロナの影響から回復が見えてきた団体鑑賞に向けたチケット販売促進や、プロの芸術家や主催団体との共催事業の誘致による稼働率の向上に積極的に取り組むなど事業収入、利用料収入の確保に取組みました。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

日報、月報の作成・管理を適切に行いました。
また業務評価についても期日までに作成し提出しました。

(6) その他

令和6年度は、専門的なノウハウの発揮と市民サービスの向上を、専門文化施設の特性を踏まえて共に発揮するため、市及び関係機関等との連絡調整を重点的に引き続き取組みました。

※ 5 (1)～(6)の具体的な取組内容や実施状況は、指定管理業務計画表に記載しています。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	鑑賞型事業のメニューのジャンル数	ジャンル数	25	25	25	25	—	25	—
	実施回数 及び入場者数	実施回数	227回	200回	232	245	—	200回	—
		入場者数	31,962人	35,000人	33,238人	38,106人	—	50,000人	—
2	展示型事業の実施回数		9回	8回	12回	14回	—	8回	—
3	来場者(参加者)満足度(アンケート集計)		4.4	4.2	4.2	4.6	—	4.5	—
4 ★	票券システム、ゲッティの会員数		26,019人	25,000人	29,149人	32,187人	—	29,000人	—
5 ★	横浜にぎわい寄席の初来館者の割合		7.9%	40%	38.1%	37.9%	—	50%	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	鑑賞型事業及び展示型事業の参加者の声	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 6 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した（※1）
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アンケートに、楽しんだ旨の感想が寄せられる
		R 8 実績	—
2 ★	広報媒体に寄せられた感想や意見	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 6 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した（※2）
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	自主公演を他者に薦める感想が散見される
		R 8 実績	—

（※1）実施期間：4/1～3/28 各公演のアンケートの声より（「→」の後は、当館の対応）

「なかなか横浜で観られないお二人なので是非続けて欲しいです。」（5/10 馬石・龍玉兄弟会）→R7年度も継続
「毎回楽しい落語会なので続けてほしい。」（5/14 第六回 三四郎・小痴楽二人会）→R7年度も継続

「講談の機会が極端に少ないので、もう少し増やして欲しい思います。」（5月公演）→R7年度は登竜門シリーズにて新たに神田伊織（講談師）が勉強会を開始。

「にぎわい座でこれからも小春志の会を続けていただきたいです。」（8/8 小春志）→R7年度も継続

「『ただの野球好き』今年は開催されなくてとても残念でした。来年の開催を是非よろしくお願ひします。」
(10/27 鉄道好き) →R7年度開催予定

「にぎわい座オリジナル手ぬぐい、そろそろ新作が欲しいです。」（4月公演）→ 新作を年末年始興行に合わせて新発売

「売店や休憩処の充実を求める」「3Fにも自販機を」（毎月同様の声あり）→ R7年度に向けて準備を開始

（※2）アンケート実施期間：通年 要望等に迅速に対応した事例としては以下があります。

- ・X（旧 Twitter）で、主催公演出演者の投稿を随時チェックしリポストしている。
- ・HPからの問い合わせを毎日チェックし、すみやかに返信・対応している。

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

桂歌丸前館長の七回忌にちなみ、そのライフワークに焦点をあてたシリーズ公演と関連展示を実施することで、横浜ゆかりの落語家の足跡をたどりながら、市民が落語の多彩な魅力に触れられる機会をつくりました。また、宝井琴鶴の「神奈川をよむ」シリーズ第十弾では、若手支援の「登竜門シリーズ」で研鑽を積んだ成果が花開き、芸能ホールでの初開催が実現しました。神奈川を舞台にした創作講談の上演と関連展示を通して、講談の魅力のみならず、地域の歴史や魅力に改めて触れられる機会をより広げる結果となりました。具体的には、指定管理業務計画表の

「I 文化事業」「1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供」に記載の取組を行いました。

エ 使命1の令和6年度の実績、成果および課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
若い層を中心に鑑賞者の拡大を図る	趣味をテーマにした落語会、演芸会の実施	ただの〇〇好きシリーズで「歴史」「キャンプ」「鉄道」に加え新たなテーマ「銭湯好き」を開催し、来場者の興味の裾野を広げました。	来場を促したい若い層に周知するためHPを中心とした広報にさらに注力します。

(2) 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	総来場者数	76,669 人	75,000 人	90,691 人	96,612 人	—	110,000 人	—
2	貸館利用率	芸能ホール	74%	75%	75%	77%	—	80%
		小ホール	48%	60%	44%	50%	—	70%
3	体験型事業のジャンル数及び実施回数	ジャンル数	4	4	6	5	—	4
		実施回数	15	25	15	17	—	25
4 ★	公演誘致数	2	5	4	8	—	10	—
5 ★	利用者施設見学（回数）	37	10	42	62	—	30	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握	R 4 実績	貸出室場の利用者にアンケートを実施した
		R 5 達成指標	貸出室場の利用者にアンケートを実施している
		R 5 実績	にぎわい座全体の利用者にアンケートを実施した
		R 6 実績	にぎわい座全体の利用者にアンケートを実施した（※3）
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	対応が必要と判断される要望に対し迅速に行動できている
		R 8 実績	—

(※3) 実施期間：通年 利用終了時にヒアリングおよび館内意見箱より（「→」の後は、当館の対応）
「会員証などがあるとチケット購入の際にスムーズなのではないか」→ 検討

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

- ・寄席文字ワークショップなど各種体験型ワークショップ等を開催し、また経常公演前後の寄席囲を使用したホールの活用に取り組みました。具体的には、指定管理業務計画表の「I 文化事業」「2 大衆芸能の体験の場の提供」及び「II 施設運営」「1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供」に記載の取組を行いました。

エ 使命2の令和6年度の実績、成果および課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
文化芸術活動の体験の場の提供	ワークショップ、講座の開催	子ども対象マジック体験講座ではマジックの技の習得だけではなく工夫して人前で披露する力、社交性を学ぶ機会になりました。（参加数のべ29名）	技能の習得だけでなく各ワークショップに特徴的な「観察力」「協調性」「表現力」などの教育効果を明示し受講者の拡大を図ります。

(3) 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	若手演者育成事業の実施回数	173回	180回	205回	199回	—	200回	—
2	子どもをターゲットとした事業数	16	30	16	16	—	35	—
3 ★	若手演者育成公演の平均入場者数	84人	100人	151人	211人	—	110人	—
4 ★	横浜にぎわい寄席への学生、子ども入場者数	399人	700人	352人	315人	—	800人	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績		
1	子どもたちや学校の声	R 4 実績	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できた	
		R 5 達成指標	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できている	

	R 5 実績	アンケート等に寄せられた感想等 を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できた
	R 6 実績	アンケート等に寄せられた感想等 を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できた (※4)
	R 7 実績	—
	R 8 達成指標	学校から大衆芸能の体験やアウトリーチを望む声が横浜にぎわい座に寄せられている
	R 8 実績	—

(※4) 実施日：8/4（マジック体験講座）、10/27（鉄道ものまね WS）

「今回のマジック教室が楽しかったので、また、マジックをしてみたいし、ポロン先生のライブ（勉強会）

も見に行きたいです。」

「ならったマジックをかぞくにいっぱいみせた！」（以上、「マジック講座」参加者）

「子供がとても満足していてよかったです。違う面から鉄道にふれることができ、よかったです。」

「鉄道好きの方と楽しいひとときがすごせて嬉しかったです。またやってください。」（以上、「鉄道ものまね講座」小学生参加者の保護者）

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

- ・若手演者研鑽の場である「登竜門シリーズ in のげシャーレ」を年間通じて開催しました。また、横浜にぎわい寄席や独演会等での若手登用に積極的に取り組みました。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成」に記載の取組を行いました。

エ 使命3の令和6年度の実績、成果および課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
若手芸人の育成	登竜門シリーズの開催（20回）	登竜門シリーズを卒業した宝井琴鶴が初めて芸能ホールで独演会を開催したほか、来年度から新たに若手2名が同様に芸能ホールで独演会を予定しており若手育成の場として機能を果たしました。	演者、鑑賞者ともに次世代の人材育成を目指して、公演だけでなく時代に合う形での教育普及の場を提供できるよう努めます。
その他の子ども事業	学校単位の貸切公演の開催（4校）	学校や旅行代理店からの鑑賞希望を受けて、当館で日程・出演者・内容をアレンジする貸切公演を4校（延べ参加者数793名）開催。鑑賞に加え生	学校の予算や鑑賞する学年の理解力に応じて内容を決定するため調整が必要な事業であり、数多く開催することは難しいですが、大衆芸能や寄席の魅力を知ってもらう機会と

		徒代表が寄席太鼓などの体験もできる場としました。	して継続・周知できるよう努めます。
--	--	--------------------------	-------------------

(4) 使命4 地域のにぎわいを創出する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	5	6	7	8	—	10	—
2 ★	自主事業公演への団体誘致数	27	50	39	42	—	70	—
3 ★	野毛共催事業数 (利用促進委員会)	4	3	4	5	—	5	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績					
1	地域団体との意見交換等による現状把握	R 4 実績	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加した				
		R 5 達成指標	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し地域団体の要望を的確に把握したうえでの連携ができている				
		R 5 実績	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し、連携を行った				
		R 6 実績	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し、連携を行った				
		R 7 実績	—				
		R 8 達成指標	地域団体のより幅広い各種会合に積極的に参加し、横浜にぎわい座に対する地域のさまざまな期待を把握できている				
		R 8 実績	—				

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

- 野毛大道芸をはじめ、野毛地区街づくり会や野毛飲食業協同組合と連携してイベントの開催や広報活動を行いました。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与」に記載の取組を行いました。

エ 使命4の令和6年度の実績、成果および課題

項目	実績 (アウトプット)	成果 (アウトカム)	課題

地域のにぎわい作りに寄与	「野毛地区街づくり会」「横浜にぎわい座利用促進委員会」と野毛大道芸、野毛地区カラオケ大会など5事業を共催。	野毛を代表するイベント「野毛大道芸」では2日間にわたり会場提供を行い街のにぎわい創出と施設周知に直接的な効果がありました。またカラオケ大会等で地域住民の文化活動の場となることで参加者・観客に親しみを持って来館いただきました。	横浜市大・藤崎ゼミ報告のような若い世代の意見を聞く機会を設けることや、地域のにぎわい作りに寄与できる取り組みや協働の内容を考えいく必要があります。
--------------	---	--	---

(5) 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	84	110	84	84	—	120	—
2 ★	横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数	1,523 人	2,000 人	2,096 人	2,419 人	—	3,000 人	—
3 ★	横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数	369人	300人	473人	479人	—	700人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績						
1	バリアフリー視点からの来館者の声	R 4 実績	—					
		R 5 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している					
		R 5 実績	障がい者団体へのインタビュー調査を実施した					
		R 6 実績	障がい者団体へのインタビュー調査を実施した (※5)					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している					
		R 8 実績	—					
2 ★	バリアフリー設備の維持管理	R 4 実績	機能の適正な維持					
		R 5 達成指標	機能の適正な維持					
		R 5 実績	機能の適正な維持					
		R 6 実績	機能の適正な維持					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	機能の適正な維持					
		R 8 実績	—					

(※5) バリアフリー視点からの取り組み内容

- ・横浜市身体障害者団体連合会にヒアリングにかけ、現状の横浜にぎわい座でのバリアフリーの取り組みについて意見交換し、今後取り組める可能性のある対応について検討を行っていく手掛かりとしました。

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

- ・にぎわい寄席をあらゆる人を受け入れる基盤として、誰もが楽しめる場として位置づけています。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出」に記載の取組を行いました。

エ 使命5の令和6年度の実績、成果および課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
外国人に向けた取り組み	横浜市国際交流協会（YOK E）へヒアリング実施	在住外国人の方の興味・関心の方向を知ることができ、また当館にお越しにいただくためにやさしい日本語を使用したツールの検討をはじめました。	施設や事業の情報発信の工夫、来館することで何が楽しめるのかといったソフト面について、次年度に予定している2階情報コーナーの改修と合わせて検討を進めます。

(6) 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件	0 件	—	0 件	—
2	法定点検等の実施	100%	100%	100%	100%	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	147%	90%	90%	118%	—	90%	—
4 ★	来館者アンケートの施設快適性評価／5点満点	4.2	4.2	4.5	4.5	—	4.4	—
5 ★	避難誘導訓練実施	2回	2回	2回	2回	—	2回	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績		
		R 4 実績	R 5 達成指標	
1	施設の使いやすさや快適さ	R 4 実績	施設利用者へのヒアリングを行った	
		R 5 達成指標	施設利用者へのアンケート回収時に利用者の協力を得られる場合はヒアリングを行っている	

について のヒアリ ング	R 5 実績	施設来場者へのアンケートを行った
	R 6 実績	施設来場者へのアンケートを行った
	R 7 実績	—
	R 8 達成指標	施設利用者へのヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
	R 8 実績	—
★ 2 管理運営 費推移の 要因分析	R 4 実績	光熱水費の上昇について分析を行った
	R 5 達成指標	年度ごとの仮決算で、予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と善後策検討を行っている
	R 5 実績	年度ごとの仮決算で予算との差異が大きな管理運営費について、要因を分析して善後策を検討した
	R 6 実績	年度ごとの仮決算で予算との差異が大きな管理運営費について、要因を分析して善後策を検討した
	R 7 実績	—
	R 8 達成指標	第四期指定管理期間の管理運営費の推移の中で変動のある科目について要因を分析し改善案を策定する
	R 8 実績	—

ウ 使命 6 を達成するために重点的に取り組む事項

- ・「指定管理者業務の基準」等に示された業務を着実に実施しました。具体的には、指定管理業務計画表の「III施設管理」に記載の取組を行いました。

6 その他の令和 6 年度における成果と課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
組織内研修	専門人材研修・人権研修等への積極的な参加	障がい者差別解消法改正の観点での外部研修を 8 回受講、公文協主催のオンライン研修のほか財団専門人材研修へ 3 名が参加し学びを深めました。	オンラインでの研修開催が増え、参加のハードルが下がりました。今後も積極的に参加を促します。

7 令和 6 年度の決算

別紙のとおり

令和6年度 横浜にぎわい座会計 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明□
指定管理料	225,799,497	0	225,799,497	226,320,339	-520,842	横浜市より
利用料金収入	15,500,000	0	15,500,000	16,298,600	-798,600	施設利用料、附帯設備利用料
自主事業収入	103,374,000	0	103,374,000	120,123,420	-16,749,420	入場料・講座料・貸切公演等の受託料・グッズ売上ほか
雑入	130,000	0	130,000	649,756	-519,756	
印刷代	30,000	0	30,000	147,970	-117,970	利用者コピー・貸館チケット印刷代ほか
自動販売機手数料	100,000	0	100,000	104,556	-4,556	自動販売機売上手数料
協賛金・助成金・負担金・寄附金	0	0	0	256,000	-256,000	映像音源使用料、寄付金
その他	0	0	0	141,230	-141,230	ハマふれんど給付金など
横浜市補助金・負担金	0	0	0	1,452,000	-1,452,000	物価高騰支援金
収入合計	344,803,497	0	344,803,497	364,844,115	-20,040,618	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明□
人件費	100,315,000	0	100,315,000	92,062,811	8,252,189	
給与・賃金	82,890,000	0	82,890,000	76,744,994	6,145,006	職員、アルバイト、にぎスタ人件費
社会保険料	9,613,000	0	9,613,000	9,417,368	195,632	社会保険、労災保険
通勤手当	4,756,000	0	4,756,000	4,087,740	668,260	通勤手当
健康診断費	38,000	0	38,000	64,048	-26,048	健康診断
勤労者福祉共済掛金	54,000	0	54,000	54,000	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	2,964,000	0	2,964,000	1,694,661	1,269,339	退職給付引当金
事務費	7,649,497	0	7,649,497	9,806,099	-2,156,602	
旅費	120,000	0	120,000	179,200	-59,200	出張旅費
消耗品費	990,497	0	990,497	1,988,213	-997,716	舞台用ハロゲン電球（74万）、エントランス提灯、ノートPC 1台購入のため増
印刷製本費	0	0	0	91,970	-91,970	名刺、チケット用紙印刷
通信費	900,000	0	900,000	864,582	35,418	電話代、郵送料
使用料及び賃借料	3,117,000	0	3,117,000	2,378,096	738,904	
横浜市への支払分	87,000	0	87,000	5,174	81,826	目的外使用料（グッズ売場のみ、自販機は立替）
その他	3,030,000	0	3,030,000	2,372,922	657,078	携帯抑止装置、コピー機使用料、予約システム
備品購入費	330,000	0	330,000	527,164	-197,164	アンプ・非常用設備更新
施設賠償責任保険	54,000	0	54,000	49,340	4,660	施設賠償責任保険
職員等研修費	0	0	0	24,900	-24,900	
振込手数料	90,000	0	90,000	172,260	-82,260	
リース料	1,500,000	0	1,500,000	1,623,635	-123,635	PCリース
手数料	200,000	0	200,000	141,500	58,500	産廃手数料、IB基本手数料等
地域協力費	50,000	0	50,000	27,600	22,400	町内会費
委託費	0	0	0	0	0	
広報宣伝費	33,000	0	33,000	1,267,574	-1,234,574	HP更新、パンフレット・印刷ほか
雑支出	215,000	0	215,000	318,682	-103,682	式典、供花、真打昇進披露祝儀ほか
仕入	50,000	0	50,000	151,383	-101,383	グッズ
事業費	100,500,000	0	100,500,000	101,678,162	-1,178,162	
自主事業費	100,500,000	0	100,500,000	101,678,162	-1,178,162	出演料、舞台技術、後方製作費、チケット販売手数料ほか
管理費	100,394,000	0	100,394,000	105,704,631	-5,310,631	
光熱水費	16,507,000	0	16,507,000	21,658,951	-5,151,951	
電気料金	12,061,000	0	12,061,000	15,554,710	-3,493,710	電気
ガス料金	3,144,000	0	3,144,000	4,491,002	-1,347,002	ガス
水道料金	1,302,000	0	1,302,000	1,613,239	-311,239	水道
修繕費	1,800,000	0	1,800,000	2,126,850	-326,850	小破修繕
設備保全費	61,940,000	0	61,940,000	61,897,430	42,570	
害虫駆除清掃保守	40,000	0	40,000	120,000	-80,000	害虫駆除
専有部分管理費	52,900,000	0	52,900,000	52,435,680	464,320	専有部の設備管理、警備、機械警備、清掃
舞台技術費	9,000,000	0	9,000,000	9,341,750	-341,750	ホール等日常管理業務
共益費	20,147,000	0	20,147,000	20,021,400	125,600	ビル共用部管理費
公租公課	10,698,000	0	10,698,000	11,794,613	-1,096,613	
事業所税	0	0	0	0	0	
消費税	10,597,000	0	10,597,000	11,637,100	-1,040,100	消費税
印紙税	79,000	0	79,000	128,000	-49,000	収入印紙
その他	22,000	0	22,000	29,513	-7,513	電波使用料ほか
事務経費	25,247,000	0	25,247,000	25,247,000	0	
本部分	25,247,000	0	25,247,000	25,247,000	0	
支出合計	344,803,497	0	344,803,497	346,293,316	-1,489,819	
差引	0	0	0	18,550,799	-18,550,799	